



石井病院

じんけいクリニック

Now Vol.129

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2018.12

## 石井病院 「トライやるウィーク」に参加協力しました

トライやるウィークとは、兵庫県下の中学2年生が地域の事業所などで働くことを経験し「働くことの意義」や「楽しさ、厳しさ」を学ぶ貴重な体験の場です。当院では、11月5日～9日の5日間 神戸市立平野中学校の生徒さん3名を受け入れ「トライやるウィーク」に参加協力しました。



(看護師さんと一緒に記念撮影)

### <参加された生徒さんの感想をご紹介します> ※一部抜粋

私はこのトライやるウィークをさせていただいて2つのことを学ばせて頂きました。

まず、周りの人への感謝です。トライやるをする環境をつくって下さった病院の人たち、学校の先生など色々な人のおかげでやり遂げることができました。2つ目は元気であることや普通に生活できている喜びです。トイレなど自分で行きたくてもいけないし、自分の口で味わって食事をしたいのにチューブで胃に送らないといけないなど今普通にしていることへの喜びを忘れずに、これからの生活をきちんと見直していきたいと思いました。

最後になりましたが、5日間貴重な体験ありがとうございました。自分が思っていたよりも忙しくて、そのうえいつもたえず笑顔でいる病院の人を見て、私も将来そんな人になりたいと思いました。看護師、助産師という夢をあきらめず、病院でさせてもらったことをこれからの生活にいかしていきたいと思います。(Y.Mさん)



私は今回のトライやる・ウィークで、たくさんのことを学ばせて頂くことができました。

1つ目は病院の仕組みです。誰か1人だけが頑張っても病院の中はうまくいかなくて、お医者さんや看護師さん、薬剤師さんなど本当にたくさんの方が心を一つにして、助け合って、初めてうまくいくものだという事を知りとても感動しました。2つ目は、働いている方々のすごさ、優しさです。働いている方々は朝早くから、そして夜遅くまで働いて、とてもつかれているはずなのに患者さんや利用者さんと優しく笑顔でお話していて本当にすごいなと思いました。そして私達中学生にも嫌な顔一つせずに色々なことを教えてくださってとても嬉しかったです。他にも数えきれないくらい本当にたくさんにことを学ばせて頂きました。これからの人生に活かしていけるよう頑張ります。5日間お世話になりました。ありがとうございました！(M.Mさん)



私はこのトライやる・ウィークで病院にはさまざまな職種があり、たくさんの方が働かれていることを知りました。お茶を飲むときむせる人が飲むとろみのついたお茶を飲ませてもらいました。これは肺炎にならないように飲んでいることを知りました。寝たきりの人の点滴を用意しました。看護師の細かい仕事内容を知りました。思っていた以上に大変で、働いている人はすごいなと思いました。

一番楽しかったのはOP室です。とても楽しみにして、ドラマみたいに手を使わずに入ったり、服を着せてもらったりしました。帰ってお母さんやおばあちゃんに自慢しようと思います。トライやる・ウィークで石井病院に来て良かったです。これから勉強して、誰からにも頼られるやさしい看護師になりたいです。

5日間たくさんををていねいに教えて下さりありがとうございました。(S.Oさん)



(OP室にてモニター体験)



(病棟にてシーツ交換)



(放射線科にてCT体験)



(デイケアにて利用者さんと一緒にリハビリ)

2018年11月09日（金）に仁恵会研修センターにおいて中尾副院長と嚥下について講演を行いました。

近年、高齢化に伴い誤嚥性肺炎の患者が増加しており、嚥下に関する知識向上のため、NST委員会（教育委員会）が中心となって嚥下についての院内研修を行いました。

摂食とは、①先行期（認知期）：食べ物を認識する ②捕食：食べ物を口へ取り込む ③口腔準備期：咀嚼し唾液と混ざり食塊形成する ④口腔期：食塊を口から喉へ送り込む ⑤咽頭期：のどを通る。食道は開き気管は閉じる ⑥食道期：食道を通過する、の6つの期に分けられ、そのうちの④から⑥は嚥下とされています。誤嚥を疑う兆候として唾液貯留、ムセ（ただしムセない誤嚥もあるので注意）、微熱が続く、体重減少、食事時間の延長などがあり、その症状を認めた場合には嚥下機能評価実施を検討する必要があります。嚥下機能を評価する検査として内視鏡検査（VE）を使用した嚥下内視鏡検査、X線透視下でおこなう嚥下造影検査（VF）があり、実際の検査の様子を紹介しました。夕方からの開催にも関わらず60人以上の職員が集まり、盛況のうちに終了しました。



内科・リハビリテーション科 医師  
くろかわ たつひと  
**黒川 達人**

『Dr.中尾&Dr.黒川に聞いてみて～摂食・嚥下障害（VE・VFなど）』（発表順）

- ・ 摂食嚥下障害のフローチャートについて … 言語聴覚士 長野 幸世
- ・ なぜVEをするのか … 副院長 中尾 宏司
- ・ 嚥下障害とは？ … 医師 黒川 達人
- ・ 嚥下調整食分類2013について … 管理栄養士 竹本 安里



（院内研修の様子）

じんけいクリニック 透析患者会「秋の食事会」について

じんけいクリニック患者会は、年2回（春と秋）の食事会を開催しています。

今回は、11月25日（日）12時から グリーンヒルホテル明石（明石市大石町）にて、透析患者様とその家族並びにじんけいクリニック、石井病院スタッフが集まり、恒例の「秋の食事会」が開催されました。日頃、食事制限やベッド生活で苦労されているだけに、楽しみにされている方も多く、会場は華やかな中にも落ち着きのある雰囲気、テーブルに着席し、開会を待ちました。

佐々木事務長の司会で、阪本患者会代表幹事より挨拶があり、乾杯のあと会席料理を頂きました。ホテルには減塩ベースの和食の会席料理を用意してもらい、日頃は透析曜日や透析時間が違うと会うことのない患者さん同士の交流に会話に花が咲き、和やかな食事会となりました。イベントのカラオケでは、患者さんも日頃の練習成果を発揮し、演歌を熱唱する人や、スタッフとデュエットする人など多いに盛り上がりました。また今回は特別ゲストとして、ウクレレバンド（蛭田顧問と仲間のメンバー）とフラダンサー（石井病院 秋山健康運動指導士）にも参加頂き、ビンゴゲーム大会では参加者全員に賞品が贈られました。

あっという間に終了時間となり、参加者全員の記念写真をとり、来春の食事会を楽しみに解散しました。

※透析患者会とは、同じ悩みと苦しみをもち患者が相集まり、家族の皆様方とも交流を深め、親睦を密にすることにより、快適な透析療養生活の進歩・向上とその充実を計ることから結成しました患者団体です。会員の資格は医療法人社団仁恵会 じんけいクリニック並びに石井病院で継続して透析治療を受けている患者様です。



■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725  
平日 9:00～12:00 14:00～17:00  
土曜 9:00～12:00  
担当 酒見 古門 上野

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院  
〒673-0881 明石市天文町1-5-11  
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657  
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>